

中古文学会会員様専用注文書

2024年5月31日まで

小社書籍全点が2割引となります。  
 書目については、小社ホームページをご覧ください。図書総目録をご希望の場合は、ご請求ください。(なお、品切となっても在庫僅少の場合もありますので、お問い合わせください)  
 本体合計8,000円以上は送料サービスとなります。(8,000円未満は550円)

年 月 日

ご氏名			
お届け先	郵便番号	—	電話番号: ( ) FAX.: ( )
	ご住所	_____	
ご連絡先		電話番号: ( ) FAX.: ( )	
通信欄			

●下記書籍を注文します。

書名	本体価格	弊社使用欄	部数

●お支払い方法 (※○印をお願いします。)

1.私費 (振替用紙同封)	2.公費(校費) ※必要書類をご指示ください。
---------------	-------------------------

書類の宛名	
書類の種類	納品書 通 ・ 請求書 通 ・ 見積書 通
日付	日付なし ・ 日付つき
連絡欄	



# 国語語構成要素研究

## 蜂矢真郷「著」

(大阪大学名誉教授「国語学」)

A5判 / 上製・函入 / 四二六頁 / 定価 15,400円(10%税込)

ISBN 978-4-8273-0142-7

### 主要目次

主に上代・平安時代の古代語を中心として、複合語や派生語を構成する語構成要素を主な対象として検討を加える。準独立的なもの、名詞・動詞などとして独立的なもの、接頭辞・接尾辞のように非独立的なものとの間にあってどのような間接かを考察する。

はじめに

#### 第一篇 形容詞語幹・語基の用法

- 第一章 形容詞語幹の用法 (一)
- 第二章 形容詞語幹の用法 (二)
- 第三章 形容詞語幹の用法 (三)
- 第四章 形容詞語基の用法 (一)
- 第五章 形容詞語基の用法 (二)

#### 第二篇 被覆形と形容詞語基

- 第一章 名詞被覆形とク活用形容詞語基
- 第二章 動詞被覆形とシク活用形容詞語基

#### 第三篇 形容詞語幹・語基と形容動詞語幹

- 第一章 形容詞語幹・語基を後項に持つ形容動詞語幹
- 第二章 語幹を共通にする形容詞と形容動詞
- 第三章 語基を共通にする形容詞と形容動詞
- 第四章 形容詞の形容動詞化と形容動詞の形容詞化

#### 第四篇 準独立的要素と情態的語基

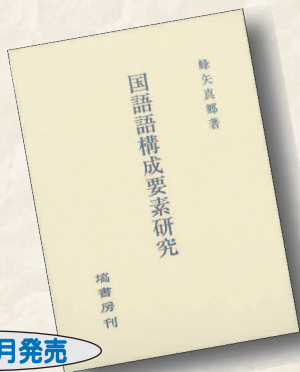
- 第一章 準独立的要素と「形状言」
- 第二章 複合語と派生語と
- 第三章 準独立的要素と情態的語基
- 第四章 複合情態的語基と派生情態的語基

#### 第五篇 派生情態的語基の用法と変遷

- 第一章 ラ接尾形とり接尾形
- 第二章 二音節語基と形容詞語幹

おわりに

索引(語句索引・事項索引)



2023年9月発売

# 国語派生語の語構成論的研究

## 蜂矢真郷「著」

A5判 / 上製・函入 / 四五六頁 / 定価 14,300円(10%税込)

ISBN 978-4-8273-0115-1

前著「国語重複語の語構成論的研究」につき、国語の上代および中古の用例を中心に、カ(・ガ)行に關係する接尾辞をともなう派生語を中心に、語構成論的に考察する。

### 【主要目次】

#### 第一篇 動詞・カス型動詞

- 第一章 カス型動詞の構成 (一)
- 第二章 カス型動詞の構成 (二)
- 補章 日本霊異記訓釈「波り天」考

#### 第二篇 形容詞語幹

- 第一章 カ型語幹の構成
- 第二章 ヤカ型語幹の構成
- 第三章 ラカ型語幹の構成
- 第四章 カ(・ヤカ・ラカ)型語幹の語基

#### 第三篇 形容詞語幹と動詞

- 第一章 ムカ(・ヤカ・ラカ)型動詞
- 第二章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・グ)
- 第三章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・ラ)
- 第四章 ムカ(・ヤカ・ラカ)型形容詞
- 第五章 ケシ型形容詞の構成 (一)
- 第六章 ケシ型形容詞の構成 (二)
- 第七章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第八章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第九章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第十章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第十一章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第十二章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第十三章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第十四章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第十五章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第十六章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第十七章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第十八章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第十九章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第二十章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第二十一章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第二十二章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第二十三章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第二十四章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第二十五章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第二十六章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第二十七章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第二十八章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第二十九章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第三十章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第三十一章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第三十二章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第三十三章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第三十四章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第三十五章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第三十六章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第三十七章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第三十八章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第三十九章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第四十章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第四十一章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第四十二章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第四十三章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第四十四章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第四十五章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第四十六章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第四十七章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第四十八章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第四十九章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第五十章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第五十一章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第五十二章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第五十三章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第五十四章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第五十五章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第五十六章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第五十七章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第五十八章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第五十九章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第六十章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第六十一章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第六十二章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第六十三章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第六十四章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第六十五章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第六十六章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第六十七章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第六十八章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第六十九章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第七十章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第七十一章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第七十二章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第七十三章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第七十四章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第七十五章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第七十六章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第七十七章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第七十八章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第七十九章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第八十章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第八十一章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第八十二章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第八十三章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第八十四章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第八十五章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第八十六章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第八十七章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第八十八章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第八十九章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第九十章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第九十一章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第九十二章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第九十三章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第九十四章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第九十五章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第九十六章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第九十七章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第九十八章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第九十九章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)
- 第一百章 ムカ(・ヤカ・ラカ)とムカ(・カ)

### 著者の本

# 国語重複語の語構成論的研究

## 蜂矢真郷「著」

A5判 / 上製・函入 / 四五八頁 / 定価 10,780円(10%税込)

ISBN 978-4-8273-0080-2



国語の、上代および中古の用例を中心に、必要のあるものについては時代を下る用例をも合わせ、重複語について語構成論的に研究する。従来の研究を踏まえつつ、新しい観点を以て、総対的・統一的に全体的構造を考察し、さらにその研究から新たな展開を示した、意義のある研究書である。

《平成10年度新村出賞受賞》

〔残部僅少〕十月一日現在(6部)本体・ケースなどにシミがあります。

書店名

# 塙書房

はなわ

〒113-0033 東京都文京区本郷6丁目26番12号  
電話：03-3812-5821 / FAX：03-3811-0617  
http://rr2.hanawashobo.co.jp  
E-mail:hanawashobo@mbb.nifty.ne.jp



# 平安朝の序と詩歌

山本真由子「著」

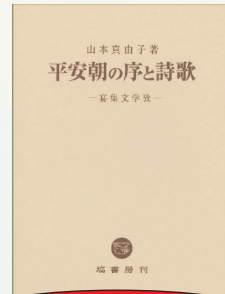
―宴集文学攷―

(大阪公立大学大学院文学研究科准教授「中古文学」)

A5判／上製・函入／三三四頁／定価 9,600円(10%税込)

ISBN 978-4-8273-0136-6

平安朝の天皇や貴族が主宰した公私の宴席で詠作された「序」と「詩(漢詩)」や「歌(和歌)」の表現について、その成立や特質を、特に「序」を軸に論じて明らかにする。



2021年3月発売

## 主要目次

序 説 平安朝の宴集と文学……………

一 和歌序と詩歌

第一章 『順集』の「うたの序」……………

第二章 斎宮規子内親王野宮庚申の和歌序二篇……………

第三章 源道済の詠紅葉蘆花の和歌と序……………

第四章 河原院の歌人達の和歌序……………

二 詩序と詩歌

第五章 源順の「閏三月詩序」について……………

第六章 北陸豈に亦た詩の国ならむや―源順を送別する宴の詩序と詩歌―……………

第七章 源順と紀斉名の詩序表現……………

三 序の展開

第八章 平安朝の大堰川における漢故事の継承……………

第九章 延喜七年大堰川行幸の詩歌と『菅家文章』……………

第十章 三条左大臣殿前裁歌合について……………

第十一章 大江千里の和歌序と源氏物語胡蝶卷……………

初出一覧／あとがき／索引／英文要旨……………

# 正倉院文書からたどる

# 言葉の世界

中川ゆかり「著」(羽衣国際大学名誉教授「上代文学」)

A5判／上製・カバー装／三七二頁／定価 12,100円(10%税込)

ISBN 978-4-8273-0137-3

正倉院文書のなかの言葉や表現を詳細に検討し、奈良時代に生きた下級官人や僧侶たちの言語生活から日本語書記のあり方の基底を考察し、当時の人々の現実の姿にも迫る。

残部僅少



2021年4月発売

## 主要目次

序―本書の目的と内容……………

一 論考篇

第一章 「妖」字考―「セ」を表す文字……………

第二章 ミナトと「潮」―河口の景観から……………

第三章 古事記と正倉院文書の文章―「乞徴・随く在・上件・右件を手がかりに……………

第四章 神や人の声を残す―「者」で括る引用から見た、話言葉記録の工夫……………

第五章 「彼国」と「貴国」―正倉院文書中の相手側を指す「彼」の用法から……………

第六章 日本上代における「耳」―漢文助字との逢会……………

第七章 梓工達の訴え―下道主の文書作成の苦心……………

第八章 破棄された手紙―下級官人下道主の逡巡……………

二 付篇―正倉院文書を読むために―

一 「大殿門」に差し上げるために、良い芹がどつしても要るのだが……………

考察1 尊称としての「大殿門」「大殿門」とは誰か……………

考察2 漢字熟語「切要」―記・紀・風土記・続日本紀に見えない言葉……………

二 急いで反故紙を下さい―「御所」によくよくマラシタマヒて……………

考察3 「御所」と呼ばれる人―「御所」とは誰のことか……………

考察4 「申給」(マラシタマフ)―両面敬語からの変化……………

三 油を買っておきなさい。但し、通常の値段で……………

考察5 夜なべの油―付「仏様にさしあげる油」……………

初出一覧／あとがき／索引……………